

海の平和を願って

戦没船を記録する会

「海のほかにその墓をもたず」。アジア・太平洋の広い海域で戦没した日本船員は60,609名、戦没した船舶は15,518隻と記録されています。船と運命を共にした船員と多数の将兵や民間人便乗者は、今もその海底に眠っています。

太平洋戦争で日本の船舶と船員は陸・海軍に徴用され、北はアリューシャンから南はソロモン諸島やインドネシア、東はマーシャル諸島、西はビルマに至る広大な海域で、軍事作戦やその補給輸送、生産資源や民生品の輸送などに従事しました。

しかし広大な海域への増援や物資補給の航海は、特別の作戦を除いて海軍の護衛がなかったため、敵潜水艦や飛行機の攻撃を受け、多くの船舶や船員、将兵・便乗者と積荷が海の藻屑と消えました。輸送船の甚大な被害に驚き、昭和18年11月会場護衛総司令部を発足させた時は、日本の商船はすでに半減していました。この戦争による船舶の被害は、500トン以上の商船2,534隻、833万総トン、船員の死亡率は、陸・海軍軍人の2倍以上の43%といわれています。

私たちは、戦争で海に沈んだ多くの人々の慰霊と鎮魂の思いを込めて、自らの手でこの戦争を検証し、その記録を後世に伝えようと、1994年「戦没船を記録する会」を結成し、戦没船員や戦没船に関する記録の収集と整備に努め、その記録・資料の展示会を全国各地で開催し、2000年には神戸市内に「戦没した船と海員の資料館」を開設して、私たちの集めた1,300隻余の戦没船の写真をはじめ、多くの記録・資料を永久展示し、また2012年には、これらの資料・記録を基にDVD『海なお深く』を製作することができました。

私たちは、これらが一層整備され、社会的に認知されることにより海の平和に役立つことを願っています。

